

クオリティインディケーター(QI)成果報告 〔麻酔科〕

指標名

麻酔科管理手術症例における麻酔科術前外来受診率

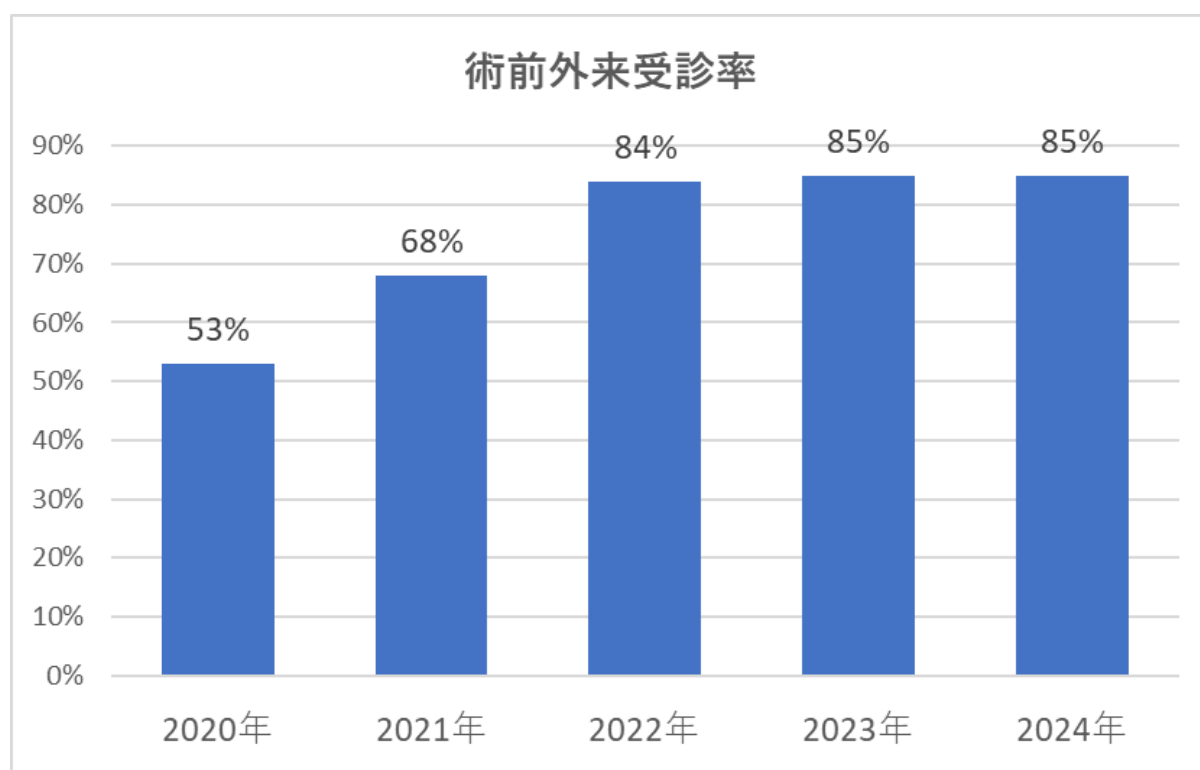
目標・ゴール

麻酔科が管理する手術患者の術前外来受診率 90%を目指す。

目標・ゴール達成による効果

多職種（医師・看護師・薬剤師）による患者情報の共有を強化し、より安全で効率的な周術期管理を行う。

目標・ゴールに対する成果の状況



目標・ゴール達成度

※該当項目に☑をつけてください

- ☐S : 大幅に目標を上回った
- ☐A⁺ : 目標を多少上回って達成
- ☐A : 目標を達成
- ☒B⁺ : 目標を少し下回った
- ☐B : 目標を下回った
- ☐C : 目標を大幅に下回った
- ☐ー : 外的要因により継続困難となった。

目標・ゴールの課題・改善策

2024 年度の麻酔科術前外来受診率は 85%で、前年度と同値であり、目標の 90%は達成できなかった。(ただし、入院患者で術前外来を受診した数を含めると受診率は 99%となり、一部の緊急手術を除きほとんどの患者が術前外来を受診した結果となった。)

2020 年度には 53%であったものが 2022 年度には 84%まで大幅に増加し、それ以降は 85%と横ばいの状況であるが、高い水準を保っている。麻酔科が管理した手術数は前年度の 7092 件から 7690 件に増加しており、術前外来受診者数は約 600 件増加している。

麻酔科管理の手術症例には一定の割合で緊急手術が含まれ、緊急症例の多くは術前外来を受診しないことから、受診率の大幅な上昇は期待出来ないが、今年度も目標値を 90%(入院患者を含めると 95%)として、さらなる受診率の増加を目指す。

術前外来で医師、看護師、薬剤師が同時に情報を共有することでより安全に、効率良く周術期管理を行えることが期待できる。